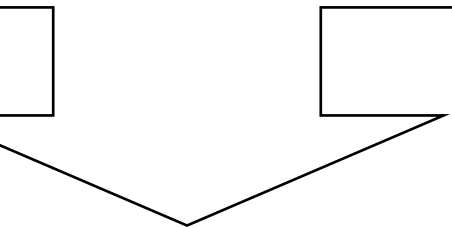


令和 3 年度授業改善推進プラン【算数科】

《 各学年の特徴 》

- 1 年 数に興味をもち、意欲的に取り組もうとする児童が多い。
- 2 年 数や形に興味をもち、意欲的に取り組もうとする児童が多い。
- 3 年 数量や図形の課題に意欲的に取り組み、自分の考えを発言しようとする児童が多い。
- 4 年 数量や図形の課題に意欲的に取り組み、進んで自分の考えを書き、発言する児童が多い。
- 5 年 数量や図形を理解しようと検討を繰り返し、熱心に課題に取り組む児童が多い。
- 6 年 数と計算、図形の知識・技能が定着しており、前向きに課題に取り組む児童が多い。



《 課題となる育てたい力 》

- 1 年 数や形に対して自分で考え解決しようとする力。
- 2 年 数や形に対して、身近な生活に即して自分で考え、課題を解決しようとする力。
- 3 年 整数の四則計算の技能。
問題解決の方法を身に付け、言葉、数、式、図などを用いて考えを表現する力。
- 4 年 整数の四則計算の技能を身に付け、活用しようとする力。
式、図、表、グラフなどを用いた思考力・表現力。
- 5 年 小数・分数の理解。
問題で問われている内容を正確に把握することと数学的な見方・考え方を働かせる力。
- 6 年 単位量あたりの計算や割合等、数量関係を整理し立式する力。
考え方や理由などを文章化して説明する力。



☆授業改善の具体策☆

《授業全体に関わる事項》

- ・少人数クラス（1・2学年）、習熟度別クラス（全学年）による授業の実施
- ・基礎的・基本的な知識や技能の定着（東京ベーシックドリル活用）
- ・考え方（解法）の相互説明（学び合い）および言語化・根拠を明確にした算数的な考え方（既習事項の活用）

《知識・技能》

- 1 年 知識・技能の定着を図るために、問題作りや反復練習の時間を設定する。
- 2 年 知識・技能の定着を図るために、問題作りやドリルを活用した繰り返し練習の時間を設定する。
- 3 年 知識・技能の定着を図るために、ドリルや補充プリント、まなびポケット等を活用して、反復練習の時間を設定する。
- 4 年 知識・技能の定着や量感を得させるため、基礎的・基本的な計算や図形、単位等について、単元ごとにまなびポケット等を活用しながら繰り返し確認の時間を取る。
- 5 年 数の性質や図形、単位量あたりの概念についての理解を深める算数的活動を繰り返し行う。単元ごとにまなびポケット等を活用しながら繰り返し確認の時間を取る。
- 6 年 日常や他教科に活用できる知識・技能を目指し、基礎的・基本的な計算や図形、単位などやものの量感について、まなびポケット等を活用しながら繰り返し確認の時間を取る。

《思考・判断・表現》

- 1 年 具体物を操作する活動を多く取り入れる。
- 2 年 見通しをもって考えられるようにするために、具体物や図を多く取り入れる。
- 3 年 筋道を立てて考える力を付けるために、言葉・数・式・図などを用いて考えを表現したり、様々な考え方の良さを検討する活動を取り入れたりする。
- 4 年 問題場면을正確に理解し、筋道を立てて考える力を付けるため、図や表を活用したり、解決の方略を言語化したりする活動を多く取り入れる。
- 5 年 ノート交流や実物投影などを活用して筋道立てて表現し合うことで、様々な考え方・とらえ方に触れる場面を多く取り入れる。
- 6 年 図や表を用いて考えたり、解決の方略を言語化したりして筋道立て、問題を理解して解決できるようにさせる。

《主体的に学習に取り組む態度》

- 1 年 身近な場면을問題として取り上げ、具体物操作を取り入れた学習活動を工夫する。
- 2 年 身近な場면을問題として取り上げ、具体物操作や話し合いを取り入れた学習活動を工夫する。
- 3 年 具体物を操作して自力解決したり、既習事項の問題を数多く解いたりして、「わかる」「できる」楽しさを味わえる場を設定する。
- 4 年 図や映像を活用し問題場면을筋道立てて解決する学習を通して、「わかった」「できた」「楽しい」「活用できる」という経験ができる学習形態を工夫する。
- 5 年 基礎的・基本的な計算や図形の技能について、まなびポケット等を活用して習熟を図り、算数的活動を通して様々な「よさ」に気付かせる。
- 6 年 まなびポケット等を活用し問題を筋道立てて解決する学習を通して、数理的処理が身近な問題の解決につながることを実感させる。